

「三郷町」：「ゼロカーボンで加速する全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」三郷」

1. はじめに (提案地方公共団体の社会的・地理的特性等)

【三郷町の社会的・地理的特性】

- ・奈良県の北西部に位置する町
- ・大阪市内まで電車で30分程のベッドタウン
- ・町域面積は8.79km²と非常にコンパクト
- ・総人口は22,621人・以前より環境対策(脱炭素等)に取り組んでおり「SDGs未来都市」に選定されている。



・SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない社会」を発展させ、内閣府が推進する「生涯活躍のまちを将来像」とし、年齢・国籍・障がいの有無に関係なく、全ての人がいきいきと「遊び」・「学び」・「働き」・「生活し」・「活躍し」・「交流する」ボーダレスなコミュニティを目指す。

【温室効果ガス排出の実績】

(千t-CO2)

部門	2013年度 (基準年度)	2019年度 (最新年度)	増減率 (2013年度比)
温室効果ガス合計	79.3	68.5	14%減

- ・温室効果ガスは2013年度比で14%減少している。
- ・部門別の実績では民生部門が約60%を占める。

【地域課題】

<課題1>災害が多い

- ・過去から大和川による水害に苦しめられてきた歴史がある

<課題2>坂道が多い

- ・坂道が多く、住民、特に高齢者の移動手段の確保は大きな課題

<課題3>働く場所が少ない

- ・大阪のベッドタウンとして発展し、町内に雇用の場が少ない

<課題4>高齢化率が高い

- ・老年人口の増加が続き、高齢化率は奈良県平均よりも高い状況

<課題5>地域経済の衰退

- ・大学の町外移転による地域の空洞化、地域経済の衰退

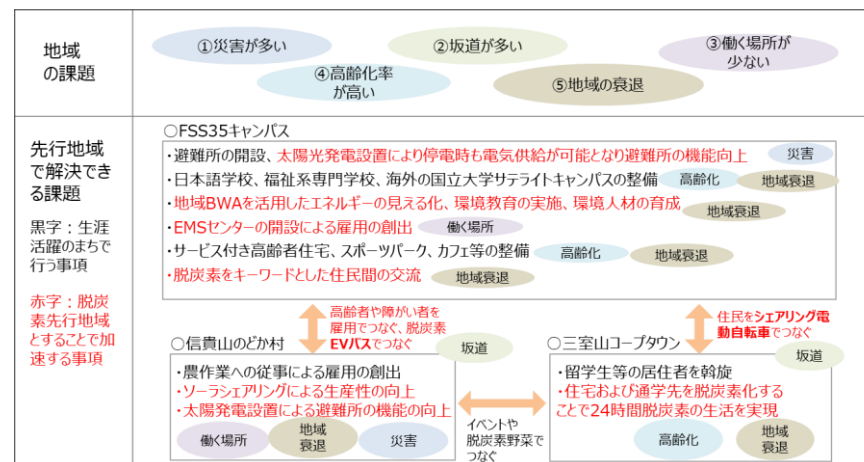
2-1. 脱炭素先行地域の概要 (対象とする地域の位置・範囲、需要家数、民生部門の電力需要量等)

【エリアの特徴】

- ①FSS35キャンパス
奈良学園大学三郷キャンパスの跡地
- ②信貴山のどか村
奈良県で一番の大きさの農業公園
- ③三室山コープタウン
奈良学園大学三郷キャンパスの学生等を中心とする多くの利用があった集合住宅



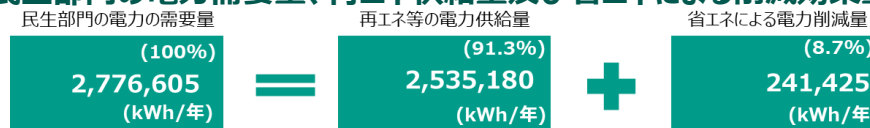
【地域課題との関係性】



【エリア規模、需要家数】

エリア規模：0.46km²、
需要家数：(民間施設)5施設、(公共施設)8施設、(住宅)12棟233戸

【民生部門の電力需要量、再エネ供給量及び省エネによる削減効果量】



2-2. 脱炭素先行地域における取組（具体的な内容及び実施スケジュール）

○ 民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロの主な取組

1. 再生可能エネルギーの新規導入

- ・FSS35キャンパス敷地内、信貴山のどか村において太陽光発電設備の最大限導入と利活用（オンサイト・オフサイトPPA）を実施
- ・営農型太陽光発電設備事業を実施し、雇用の場を創出

2. 省エネルギーの取り組み

- ・建物省エネ改修（断熱改修、LED照明、高効率空調）、蓄電池・エネルギーデータ見える化等による地域内のエネルギー利用状況管理等を実施

3. コージェネの導入

- ・FSS35へ停電対応型コージェネを導入し、災害時の電源確保による脱炭素化とレジリエンスな施設を同時実現

○ 民生部門電力以外の温室効果ガス排出量削減等の主な取組

1. EVモビリティ・EVサイクルシェアリングの導入

- ・FSS35キャンパス敷地内に再エネ電力を活用したEVステーション、EVバスを整備し、公共交通としてJR三郷駅からFSS35キャンパスまでの路線バスに使用
- ・三室山コープタウンにEVサイクルシェアリングサービスを導入

2. ペレットボイラの導入

- ・FSS35キャンパス1号館食堂等熱需要において給湯用ボイラとして導入

○ 実施スケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度 (最終年度)		
民生部門の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ	取組① FSS35キャンパスでのPPA事業										
	計画・設計	太陽光発電設置	PPA事業運用								
	取組② FSS35キャンパスでの既存建物改修										
	計画・設計	LED・高効率空調・断熱改修									
	取組③ エネマネシステムの整備										
	計画・設計	システム整備	システム運用・データ解析・フィードバック								
取組④ 信貴山のどか村でのPPA事業											
	計画・設計・整地	太陽光発電設置	PPA事業運用								
取組⑤ 三室山コープタウンでのLED改修											
	計画・設計	LED照明									
民生部門電力以外の温室効果ガス排出削減	取組⑥ FSS35キャンパスでのEVステーション整備・EV導入										
	計画・設計	EVステーション整備	EVバス運行								
		EVバス導入									
	取組⑦ FSS35キャンパスでのペレットボイラ導入										
	計画・設計	設備導入	設備運用								
	取組⑧ 効果促進事業										
	基本計画	脱炭素意識啓発(FSS35キャンパス内)						脱炭素意識啓発(広く町内に展開)			
	取組⑨ 信貴山のどか村でのEVステーション整備										
	計画・設計	EVステーション整備	運用開始								
	取組⑩ 三室山コープタウンでの電動自転車シェアリングサービス導入										
事業体制検討・構築	電動自転車導入	電動自転車シェアリングサービス導入									

3. 脱炭素の取組に伴う地域課題の解決や住民の暮らしの質の向上等

地域課題の解決のため、生涯活躍のまちを推進していくなか、脱炭素先行地域として、3つのエリアを指定することで、「生涯活躍のまち」と「脱炭素」の両方が相乗的な効果を発揮し、町全体へ「ポータルレス」・「ゼロカーボン」の波及

① FSS35キャンパス

- ・「学び」「働き」「交流する」拠点として再生し、多種多様な人が集まる場を整備
- ・環境教育を通し、世代間等の交流機会を設け相乗効果を発揮
- ・EMSセンターを開設による新たな雇用の創出と地域BWAを活用した独居高齢者等の見守り

- ・EVバス等を導入し、高齢者や障がい者等の移動手段の確保

② 信貴山のどか村

- ・「脱炭素先行地域」が「生涯活躍のまち」の活躍（雇用）の場をより一層創出し、さらに災害に強いまちづくりにも寄与

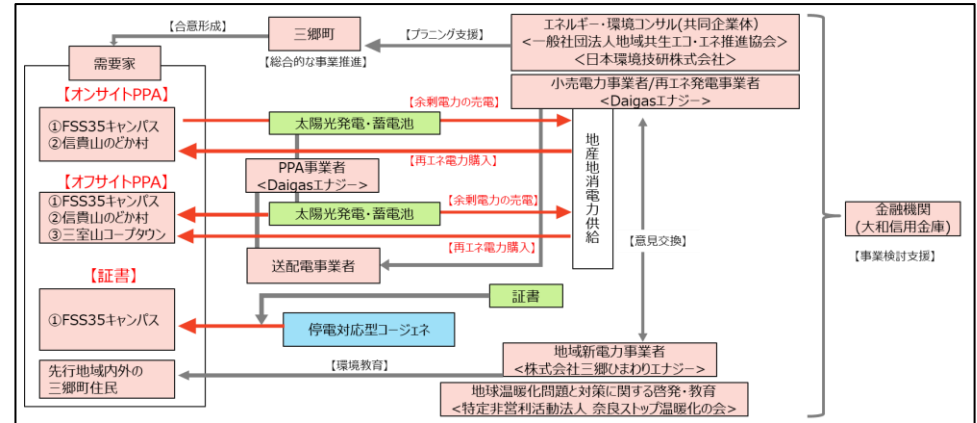
③ 三室山コープタウン

- ・脱炭素によるゼロカーボンの生活を通じた環境リテラシーの向上
- ・国内外の次世代の学生に普及することで、本町の取り組みを通じた、国外への脱炭素推進

4. 関係者との連携体制と合意形成状況等

【関係者との連携体制と合意形成状況】

- ・需要家・PPA事業者等を共同提案者とし、連携体制は以下の通り



- ・PPA事業者は選定済み
- ・再エネ発電事業者、及び、地域新電力、その他企業等は合意済み

【地方公共団体内部の推進体制】

- ・実効性を高めるために全庁横断的に取組みを推進する組織を設置
- ・外部有識者やエリア内利用者を加えた有識者会議で効果検証実施

5. 2030年度までに目指す地域脱炭素の姿

【将来像】

- ・住民の環境リテラシーの向上が図れ、地域新電力会社「株式会社三郷ひまわりエナジー」及びDaigasエナジーによるPPA事業を中心に町内全域に再エネ電源の設置や、一般家庭での電気自動車の普及が進み、町全体でゼロカーボンによるレジリエンスなまちが実現

【モデル性】

- ・「脱炭素」と「生涯活躍のまち」を掛け合わせた取り組みが人口減少・少子高齢化による地方大学の撤退を余儀なくされる他市町村や、生涯活躍に取り組む51の自治体のモデル例となる

【先進性】

- ・地域BWAの特徴を活かした電力量把握での高齢者の見守りが、DXの推進、先進事例となる

